

祝 辞

令和2年度松本蟻ヶ崎高等学校卒業式に際しまして、PTAを代表し、お祝いの言葉を申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございませう。また保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございませう。

卒業生の皆さんが蟻ヶ崎高校を受験した年は、志願者がとても多く厳しい受験でしたので、合格者したときは、どんなにか嬉しかったことだろうと思います。

蟻ヶ崎高校での3年間は、どんなを毎日でしたか。学校での授業や部活、ぎんが祭にクラスマッチ、台風から逃げるようにして帰ってきた研修旅行、そして部活最後の大会がコロナの影響でなくなってしまうこと……。

楽しいこと、大変なこと、悔しかったこと、様々な出来事があったと思います。かけがえのない仲間や先輩、後輩と過ごした3年間は、大変いとおしく思われるとともに、まだやり足りないこと、もっと続けたかったこと、もあつたと思います。

もうこの校舎で、この仲間たちと過ごすことはありませんが、この蟻ヶ崎高校での3年間の思い出や経験を、皆さんは一生涯忘れることはないでしょう。

これから自らの道を歩みだす卒業生の皆さんですが、長い道のりの中では、辛い思いや悲しい思いをすることがあります。

古くからの故事に、

「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。

どのような由来を持つ言葉かというと、

ある時老父の飼っていた馬が逃げてしまいました。周りの人々は皆、気の毒がり慰めましたが、その老父は

「このことが幸福にならないとも限らないよ。」と言います。それから数ヶ月して、逃げた馬が駿馬と一緒に連れて帰ってきました。そこで人々が祝福すると、老父は喜ぶどころか、

「このことが災いにならないとも限らないよ。」と答えるのです。

その懸念が現実のものとなり、老父の息子が落馬して、脚に大怪我をしてしまいました。

周りは皆、かわいそうに思っただけ慰めましたが、その老父は

「このことが幸福にならないとも限らないよ。」
といえます。その1年後、敵が侵入してきました。若者達は戦いますが、多数が死亡する悲惨な結果でした。しかし老父の子は脚の怪我のため、戦乱に巻き込まれずに、生き延びることができたのでした。

この故事が教えてくれるのは、いたずらに一喜一憂することなく人生に対処する、という生き方です。長い人生では楽しい事や嬉しい事もあれば、辛い事や悲しい事もあります。しかし何が幸福で何が不幸かは直ぐに決まるものではありません。

皆さんも嬉しい時には自己を律して、悲しい時には将来必ず幸せが訪れるものと信じて、何があっても動じず、現実を受け止めてください。

何事にも一喜一憂せず、苦しいことや向かうべき目標に対して、真剣に取り組み続けることに期待しています。

さて保護者の皆様、3年間PTA活動にご協力いただき、ありがとうございます。

子どもが成長すること、私たち親も成長させてもらいました。しかし子どもは巣立っていきま
す。今後、親元を離れて生活するお子様も多いと
思います。まだまだ親の心配は尽きませんが、こ
れからは少し遠くから見守っていきましよう。

校長先生をはじめ諸先生方、3年間大変お世話
になりました。時に厳しく、時にやさしく、その
心はいつも生徒たちのためにと、熱心にご指導い
ただきましたこと、心より感謝申し上げます。今
日卒業する生徒にとって生涯大切な先生です。今
後とも温かく見守り応援してください。

同窓会の先輩方、同窓会にまた新しい後輩が加
わります。これからも先輩として後輩を温かくご
支援いただければと思います。

この卒業生がいつまでも母校と誇れる松本蟻ヶ
崎高等学校であり続けるようご祈念申し上げ、お
祝いの言葉とさせていただけます。

令和3年3月4日

松本蟻ヶ崎高等学校

PTA会長

中谷幸喜